

明石

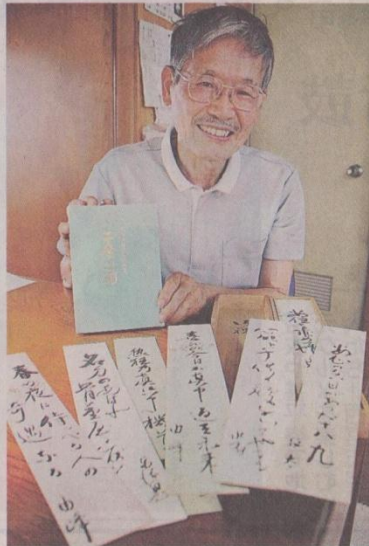
■明石総局
〒673-0882
明石市相生町2-10-24
TEL……078-912-4343
FAX……078-913-2833
e-mail
akashi@kobe-np.co.jp

■本社社会部
〒650-8571
神戸市中央区
東川崎町1-5-7
TEL……078-362-7040
FAX……078-360-5501
e-mail
shakai@kobe-np.co.jp

火事や事故の速報、写真、映像
提供、身近な話題、生活情報を
上記へご連絡ください

日々の
感謝
明

「ふあうすと」同人 故名越由峰氏 遺作の川柳 作品集に



亡き父の川柳を本にまとめた名越文哉さん＝大久保町高丘5

大久保の五男文哉さん出版

月刊「川柳ふあうすと」同人生まれ。会社勤めの傍ら川人で、川柳六大家の一人、梶柳を詠み、1930年に同誌元紋太らとも交流の深かったの同人に。梶元や三條東洋樹故・名越由峰氏の遺作を、五岸本水府らとも親交があった。男で明石市大久保町高丘5の名越文哉さん(72)が作品集「二合の酒」にまとめた。だが神戸大空襲で焼け出され、戦後は5人の子を養った。中学校のP

家や図書館探し「父の姿初めて知った」

TA活動などに長年携わり、76年に80歳で亡くなった。文哉さん自身は川柳に興味がなく、形見分けの句会の短冊もしまい込んだままだったが、定年後、知人に誘われ俳句の世界へ。4、5年前には偶然、ふあうすと社で父を知る社員に会った。あらためて父を見つめ直したいと家に残る句を探し、図書館に通い詰めた。

2年前には間質性肺炎を患い、病と闘いながら集めた句は、千句近くに。一部は阪神・淡路大震災で失われていたが「粹であそび上手だった父の姿を、初めて知った」と文哉さん。「没後38年で供養ができたかな」と笑った。

(広畑千春)